

Double Cross The 3rd Edition

シナリオ

# Who Inside

シナリオ執筆:ばらでいん

『ダブルクロス The 3rd Edition』は有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

# シナリオ:Who Inside

あひみてのちはとこしへの  
わかれとなりし世のなごり  
かなしきゆめと思ひしを  
われや忘れじ夏の夜半

—— 島崎藤村「白磁花瓶賦」より

## プリプレイ

### データについて

このシナリオは『ルール1』のみでプレイするために記述されている。そのため、『エフェクターカイク』によるエフェクトの内容変更については対応していない。

### ■シナリオデータ

プレイヤー:3~5人  
PCの消費経験点:0~15点  
プレイ時間:4~5時間

### ■ステージ

東京近郊N市を舞台とする。

### ■ストーリー

十数年前の夏、交通事故にあったPC1は、綾杉七緒という少女に助けられる。彼女はオーヴァードで、無意識にPC1を覚醒させることで死の淵から救ったのだ。七緒はPC1とその年の夏休みを過ごした後、N市に設立されたレネゲイド研究施設に被験者として協力していたが、能力が暴走。留学先での失踪として事件は闇に葬られた。

そして現在、PC1はN市で七緒と再会する。

一方、PC2が潜入している学校のクラスメイト、赤石昇は肝試しをしている途中、姿を消し

てしまう。彼らが肝試しをしていたお化け工場はUGNが管理する封印施設i7であり、PC4はこの施設の調査を霧谷雄吾から依頼される。

一方、PC3はN市で多発しているオーヴァードによる窃盗事件の捜査を警察から依頼される。

それぞれのPCが直面している事件を捜査し、すべての背後に横たわる封印施設i7とそこで数十年前に発生した事故の真相を調べ、“イマジナリィ・セブン”綾杉七緒と決着をつければシナリオは終了となる。

## ■トレーラー

時は、七月。

うだるような暑さと蝉時雨の中、陽炎のように過去の夏と現在の夏が交錯する。

そんな孤独な数字の月、孤独な超人たちは踊りだす。

七を知る者は泣くことを知らず、ゆえに彼らは人を超える。

釈迦やザラスシュトラが如く孤独な彼岸へと。

オーヴァードもまた七を知る。

七つの絆で人を超えながら超えず此岸に留まる者たち。

されど彼らは古の超人たちとは違い、その多くは超えさせられた凡人。

彼らが七を失った時、その孤独の中に在るものは――。

### Double Cross The 3rd Edition

#### 『Who Inside』

孤独なる超人は、どんな七つの夢をみる？

## ■キャラクター作成

### ●クイックスタート

PC1:真実の探求者(『ルール1』P56)

PC2:閃光の双弾(『ルール1』P50)

PC3:誇りある紅(『ルール1』P52)

PC4:深緑の使徒(『ルール1』P54)

PC5:不確定な切り札(『ルール1』P48)

### ■PC間ロイス

以下の順でPC間ロイスを結ぶこと。

PC1→PC2→PC3→PC4→PC5→PC1

シナリオハンドアウト	
<p>各PCには以下の設定がつく。</p> <p>PC1:十数年前に覚醒したオーヴァード。</p> <p>PC2:UGNのチルドレン。</p> <p>PC3:UGN・N市支部の支部長。</p> <p>PC4:UGN日本支部のエージェント。</p> <p>PC5:UGN・N市支部に協力するイリーガル。</p>	<p><b>PC1用ハンドアウト</b></p> <p>ロイス:綾杉七緒(あやすぎ・ななお) 推奨感情 P:慕情/N:悔悟 クイックスタート:真実の探求者 カヴァー:指定なし/ワークス:指定なし</p> <p>工場区の一隅にあるお化け工場。これまではごく近くの住人の間で噂になる程度だったが、このところ暇な学生たちの間で出ると評判になり、あなたも悪友に誘われて肝試しをしていた。夏休みも始まったばかり。徐々に日常を満喫できると思ったが、工場の奥であなたは飽き飽きした感覚に襲われる。これは、ワーディングだ。</p>
<p><b>PC2用ハンドアウト</b></p> <p>ロイス:赤石昇(あかし・のぼる) 推奨感情 P:友情/N:隔意 クイックスタート:閃光の双弾 カヴァー:高校生/ワークス:指定なし</p> <p>工場区の一隅にあるお化け工場。これまではごく近くの住人の間で噂になる程度だったが、このところ暇な学生たちの間で出ると評判になり、あなたも悪友に誘われて肝試しをしていた。夏休みも始まったばかり。徐々に日常を満喫できると思ったが、工場の奥であなたは飽き飽きした感覚に襲われる。これは、ワーディングだ。</p>	<p><b>PC3用ハンドアウト</b></p> <p>ロイス:連続窃盗事件の犯人 推奨感情 P:尽力/N:嫌悪 クイックスタート:誇りある紅 カヴァー:指定なし/ワークス:UGN支部長</p> <p>少し前、警察のイリーガルからN市で頻発している集団窃盗事件の現場に、オーヴァードが形成したとみられる遺留品が発見されたとの報告があった。それから数週間が経ち、正攻法の捜査では進展が無いと認めた警察はようやく重い腰を上げ、UGNに協力要請を出した。この仕事を済ませるまで、あなたの夏休みは先送りになりそうだ。</p>
<p><b>PC4用ハンドアウト</b></p> <p>ロイス:封印施設i7 推奨感情 P:好奇心/N:脅威 クイックスタート:深緑の使徒 カヴァー:指定なし/ワークス:UGNエージェント</p> <p>N市の封印施設i7。UGN日本支部が設立された時には既に封印されていたレネゲイド研究施設の跡で、市街地に近いとはいえ汚染レベルも低い。しかし、最近になって妙な都市伝説の舞台となり、怖いもの見たさで不法侵入する若者たちが増えているという。霧谷雄吾は念のため、あなたに現地支部と協力して調査するよう命じた。</p>	<p><b>PC5用ハンドアウト</b></p> <p>ロイス:誰彼少女(たそがれしょうじょ) 推奨感情 P:幸福感/N:猜疑心 クイックスタート:不確定な切り札 カヴァー:指定なし/ワークス:指定なし</p> <p>このところ、N市には誰彼少女という幽霊が出るという噂がある。夕陽を背にして立つ少女。誰だか判らないが、懐かしい“誰か”。しかしそれに惹かれてしまうと、そのまま連れ去られてしまう。事実、あなたの周りにも夏休みの火遊びしれないが姿を消した者がいる。そして今、とても綺麗な夕陽を背に“彼女”はあなたの前に立っていた。</p>

# オープニングフェイズ

## ●シーン 1:あの日の別れ(PC1)

### ◆解説 1

PC1 のオープニングは綾杉七緒との思い出を断続的に回想するシーンである。

最初は、PC1 が事故に遭った直後。七緒は PC1 に《ヨモツヘグリ》を使用する。このことは明示すること。

### ◆描写 1

鈍い音と青空。それがあなたがこの世で見た最期の光景になるはずだった。しかしあなたの臉は再び開き、紫色の黄昏とひとりの少女が飛び込んできた。

#### ▼セリフ:綾杉七緒

「よかった。無事みたいだね」

「君、車にかすられたショックで気を失ってたみたい。一応病院に行った方がいいよ」

「私は綾杉七緒。君は？」

### ◆解説 2

「描写 1」からしばらく後、夏休みの最終日に七緒と会話した時の回想。

### ◆描写 2

その後も七緒はあなたのことを気にかけて、何度が様子を見にきた。いつの間にか仲も良くなり、一緒に遊びにも行った。

だが、別れは夏の終わりとともにやってきた。

#### ▼セリフ:綾杉七緒

「こんにちは。今日もまだ暑いね」

「新学期も頑張ろうね……。って、しばらくお別れだけど」

「留学、することになったんだ。PC1 には、夢とかある？」

「私、将来は命を助ける仕事をしたいから。そのために決めたんだ」

「今年は天気悪くて花火大会に行けなかったのが心残りだけどね。しばらく見られなくなるかもしれないから」

「だから、約束しよ？ 次は絶対ふたりで花火大会に行くって」

### ◆結末

だが、その日を最後に七緒は PC1 の前から姿を消した。新聞の片隅で報道された外国での留学生失踪事件が、彼女の名を見た最後のことである。

回想は終了して現在。PC1 は陽炎でゆらめく交差点の向こうに、綾杉七緒らしき人影を見る。シーン終了。

## ●シーン 2:消失(PC2)

### ◆解説

PC2 が赤石昇たちと肝試しをしているシーン。

### ◆描写

あなたは明かりひとつない工場の中を歩いている。しかし、今日のこれは任務ではない。発端となったのはクラスメイト。目的は……肝試しである。

言い出しっぺの赤石昇は、わざわざ持ってきたビデオカメラを構えてさっさと先に向かっている。

が、突然その声が途切れた。一緒に来ていた友人たちの間に動揺が走る。

#### ▼セリフ:赤石昇

「ちえ、何も無いぜ。もうちょっと奥に行ってみるか？」

「気をつけるよ PC2。ここ足場がヤバいわ」

「あ……。何だ、これ？」（足場が崩れる音）

### ◆結末

赤石のいた場所へ向かっててもビデオカメラ以外何も残っていないが、ワーディングの痕跡を感じる。なお、ビデオの映像が途切れる前の一瞬には、少女のような人影が映りこんでいる。

赤石が消えた直後に UGN・N 市支部からの連絡が入り、PC3 のバックアップを行なうよう命じられる。シーン終了。

## ●シーン 3:厄介ごとは突然に(PC3)

### ◆解説

シーン 2 よりも前。UGN・N 市支部で、PC3 が警察から捜査の協力要請を受けるシーン。

連続窃盗事件の担当刑事が PC3 に事件の概略

を説明し、捜査をUGNに移管する。

## ◆描写

UGN・N市支部、支部長室。夏期休暇に向けて残った仕事を片付けていたあなたのもとに、新たな厄介ごとが持ち込まれてきた。

警察の協力要請。

近頃N市で頻発する窃盗事件に、オーヴァードが関係しているという情報は既に警察内部のイリーガルから得ていた。しかし、組織の面子や内部の調整で足を引っ張り、UGNへの要請が遅れていたという。

その日訪れた刑事も、苦虫を噛み潰したかのような表情であなたと対峙していた。

## ▼セリフ:刑事

「……これが事件の概略だ。詳細は既に渡してある資料を参照して欲しい」

「以上、現刻をもって本件はUGNへと正式に移管されたものとする……っと」

(席を立ちながら)「我々警察がオーヴァードの犯罪に対し、今はまだ無力だということは認めざるを得ない。しかし、君たちは大丈夫なのかね？」

「まあいい、お手並み拝見といかせてもらえばいいよ」

## ▼セリフ:秘書

(刑事の退室後)「やれやれ、警察ももう少し協力的なら助かるんですが」

「少々人手がいりそうですね。バックアップはPC2とPC5でどうでしょう？」

「あれ？ PC5に電話が繋がらないや。おっかしいなあ」

## ◆結末

刑事が退室し、PC3と秘書の会話をまとめたらシーン終了。

## ●シーン4:新たな任務(PC4)

### ◆解説

UGN日本支部で霧谷雄吾から、N市の封印施設i7を調査するよう命じられるシーン。

### ◆描写

窓の外から蝉時雨が聞こえると、冷房の効いた室内でも微妙な暑さを感じる。

案内された部屋は、これまでも何度か足を運んだ霧谷雄吾のオフィス。あなたの姿を認めた

霧谷は読んでいた聖書をデスクに置き、軽く会釈して話を切り出した。

## ▼セリフ:霧谷雄吾

(聖書のこと)「祖父から昔もらったものです。

私は特に信仰しているというわけでもありませんが、折に触れては目を通してます」

「PC4。今回はN市にある封印施設i7の調査をお願いします」

「破棄されたレネゲイド研究施設ですが、汚染レベルは低く状態も安定しています。ただ、周辺に少々問題が発生しました」

「若者たちから“お化け工場”と呼ばれ、たびたび侵入されているようです。関連して事故などが発生していないか、調査してください」

## ◆結末

PC4がN市へ向かえばシーン終了。

## ●シーン5:日常のほころび(PC5)

### ◆解説

PC5が誰彼少女に出会うシーン。

PCと誰彼少女は〈知覚〉で対決を行なうこと。PCが勝利した場合、誰彼少女の姿はオーヴァードの能力で外見を変化させているものだと知ることができる。

### ◆描写

少し涼しい風が吹き始める夕刻、河川敷の遊歩道に彼女はいた。

夕陽を背にした逆光でその顔は見えないが、懐かしい“誰か”は、あなたを認めると、陽炎のようにゆらりと歩を進める。

その一歩ごとにひとり、またひとりと、彼女たちは長い影から這い出したかのように人数を増やし、ひたひたとあなたへと近づく。

あなたの首筋をすっと生暖かいものがなぞる。ワーディングだ。

が、彼女たちはあなたにそれが通じないと気づくとそのまま通り過ぎ、どこかへと向かっていく。

「行かないと、行かないと、行かないと、行かないと、行かないと」

耳に残る囁きを残して、彼女たちは夕闇へと消えていった。

## ◆結末

誰彼少女が立ち去るとシーン終了。

# ミドルフェイズ

## ■固定イベント

固定イベントは、オープニングフェイズが終わってから順番に演出する。

## ●シーン6:再会(PC1)

### ◆解説

PC1と綾杉七緒が再会するシーン。舞台は「あの日の別れ」の終了時にPC1が立っていた交差点である。七緒はシーンに《ハンドリング》で登場している。何者かがエフェクトを使用していると宣言してもよい。

PCが七緒を攻撃した場合、彼女へのロイスはタイタスとなる。このことは警告すること。また、七緒は攻撃されると《瞬間退場》でシーンから退場してクライマックスフェイズまで登場しない。適宜演出を変更すること。

### ◆描写

あなたが車道を挟んだ陽炎の向こうに懐かしい人影を見たと思った次の瞬間、懐かしい声が飛び込んでくる。

「ねえ、もしかしてPC1？ PC1？ うわあ、大きくなったねえ」

姿も声も、最後に逢ったあの日からまったく変わっていない綾杉七緒がそこにいた。

そう、あの日からまったく変わっていない。

### ▼セリフ:綾杉七緒

「……いろいろ、あってね。やっと少しは自由が利くようになったけど、病気だったんだ」

「命を助ける仕事目指してたのに、これじゃさまにならないよね」

(行方不明のこと)「あの時は日本人だからって間違われて、新聞にも載って大変だったよ」

「つもる話もあるし、ちょっと涼まない？」(喫茶店を指差す)

「そうそう、これ、今の住所」(メモを渡す)

### ◆結末

PCと七緒が喫茶店に入ったらシーン終了。

## ●シーン7:非日常からのいざない(PC5)

### ◆解説

PC5をPC3の秘書が見つめ、UGNへの協力を

を要請するシーン。

### ◆描写

河川敷を髪を振り乱して走ってくるグレイスーツの男がいる。どう見てもジョギングなどをする姿ではない場違いな彼は、あなたの前で立ち止まった。よく見てみると、UGN・N市支部の支部長つき秘書だ。

彼は肩で息をしながら、あなたに協力を要請してきた。

### ▼セリフ:秘書

「はあ、はあ……。やっと見つけたよ、PC5」(走ってきた理由)「電話が繋がらないからほうぼう走り回ったよ。恥ずかしながら、私は、免許を、持っていない、ものでね……」

「N市支部のほうに警察からの捜査要請が入った。君の力を借りたいんだ」

(承諾する)「た、助かる……。よ。私も走ってきた、かがある」

(拒否する)「そんなあ。まあ、そのうち支部長がそっちに行くと思うから、よろしく……。頼むよ」

### ◆結末

PG5がUGNに協力するか否かにかかわらず、秘書との会話が終わったらシーンを終了する。情報収集へ移行すること。

## ■情報収集

情報収集では、以下の7つの情報を調査できる。GMは必要に応じてPC間で情報を共有するシーンなども演出すること。

「連続窃盗事件」の一部情報、および「実験中の事故」の項目は、情報収集を進めることで調査可能になる。

### ▼綾杉七緒

〈情報:噂話〉6

数十年前に海外の留学先で失踪したN市出身の少女。生きていれば三十代くらい。

〈情報:裏社会、UGN〉9

十数年前にオーヴァードと判明し、N市の施設で行なわれていた実験に協力していた。

実験中の事故で研究施設は封印され、彼女も行方不明とされた。現在の【封印施設i7】がそ

### シーン6:メモ

メモには七緒の現在住所が書かれている。住所はN川沿いに建つうらぶれた木造二階建てアパートの四畳半一部屋だ。家具は元からあったものだけでがらんとしている。

PCが望むなら、ミドルフェイズで彼女の家を訪れる演出をしてもよいだろう。

の実験を行っていた施設である。

既存のシンドロームにはない能力を持ち、“孤独な七”を意味する“ソリタリィ・セブン”のコードネームを冠された。

#### ▼赤石昇

〈情報:UGN〉6

PC2のクラスメイト。成績は中の下程度で、お調子者のムードメイカー。ミリタリー、オカルトと妙に趣味が広い。

UGNの調査ではレネゲイドウィルスの発症可能性があったものの、重篤できないため監視対象からは外れている。

【お化け工場】で肝試しをしている最中に失踪した。

#### ▼お化け工場

〈情報:ウェブ、噂話〉5

工場区にある古い工場。十数年前に閉鎖されたが、今でもたまに明かりがついていたり機械の音が聞こえることがあるらしい。

工場の中に人影が見えるという噂があり、心靈スポットとして若者が肝試しに訪れていた。

肝試しをしていた若者の中で失踪者まで出たせいか噂は沈静化。現在は新しく出てきた【誰彼少女】にお株を奪われ気味だ。

〈情報:裏社会、UGN〉8

この工場を管理しているのはUGNで、【封印施設i7】と呼ばれている。

#### ▼連続窃盗事件

〈情報:裏社会、警察〉8

N市の工場区周辺で頻発している窃盗事件。主に化学薬品や電子部品が狙われている。

工具のようなもので扉や壁をこじ開けるといいう手口で、同一犯とみられる犯行は二桁に及んでいる。しかし、一向に手がかりらしい手がかりが発見されていない。

〈情報:UGN〉5

警察から提供された遺留品を解析した結果、レネゲイドウィルスが検出された。容疑者を確保できればより詳しく調べられるはずだ。

※以下の情報は【お化け工場】と【封印施設i7】の調査後に調査できる。

〈意志〉、〈知識:犯罪〉10

事件現場を地図上に並べると、時間が経つにつれて範囲が広がっている。現状なら支部のスタッフを総動員すればぎりぎりカバーできる広さである。

「シーン8:張り込み」のシーンへ。

#### ▼封印施設i7

〈情報:裏社会、UGN〉9

UGN日本支部の設立前に存在した研究機関の施設跡。レネゲイドの研究を行っていた。

後にUGNへ合流した人材も多く参加しており、得られたデータはUGNチルドレンの教育や訓練にフィードバックされた。

【実験中の事故】で破棄され、封印措置が施された。人員は配置されていないが、封印維持のために最低限の設備を稼働させている(【実験中の事故】が調査可能になる)。

近くでは【お化け工場】と呼ばれている。

#### ▼誰彼少女

〈情報:ウェブ、噂話〉5

最近N市に夕方現われると噂されている少女の幽霊。顔はよく見えないが、何か懐かしい雰囲気を持っている。

彼女と出会って行方不明になった者がいるという噂もある。

〈情報:噂話、裏社会〉8

誰彼少女の噂と同時期に【連続窃盗事件】が始まったので、窃盗団の隠れ蓑という噂もある。

#### ▼実験中の事故

〈情報:裏社会、UGN〉10

封印施設i7はシンドロームの解析中に被験者が暴走し、研究の続行が不可能な状態にまで破壊されたため閉鎖、封印された。

この事故を同規模のものと比較すると、驚くほど周囲への汚染は軽微である。

〈情報:UGN〉12

封印施設i7の管理はUGN日本支部直轄の上、非常に限定されたスタッフしか関わっていない。市街地にある汚染施設とはいえ、これは異例である。

「シーン10:生き埋め」のシーンへ。

## ■トリガーイベント

トリガーイベントは、ある条件を満たすことで発生するシーンである。

### ●シーン8:張り込み(PC2)

条件:「連続窃盗事件」の情報がすべて提示された

#### ◆解説

窃盗事件の容疑者が狙いそうな建物で張り込みを行なっていると、彼らが現われるシーン。工場区の一部にワーディングが張られ、窃盗犯たちが活動している。しばらくすると彼らは表に出てきて戦闘となる。

情報収集:初期項目

以下は各PCが情報収集の最初に調査可能な項目の目安である。

PC1

【綾杉七緒】

PC2

【赤石昇】

【お化け工場】

PC3

【連続窃盗事件】

PC4

【封印施設i7】

PC5

【連続窃盗事件】

【誰彼少女】

敵は誰彼少女2トループ。PCを1エンゲージとし、5mの位置に1エンゲージで配置すること。まだPCが合流していないなら、他のPCにも登場をうながすとよいだろう。

戦闘前に、PCと誰彼少女は〈知覚〉で対決を行なうこと。勝利したPCは、誰彼少女はオーヴァードが能力で姿を変えているということに気づく。

### ◆描写

現在、N市支部のスタッフ総出で窃盗犯が次に狙いそうと目星をつけた場所に張り込んでいる。あとは獲物が網にかかるのを待つだけだ。

一時間たち、二時間たち……。夕闇が街を包む誰彼時、あなたに急報が入る。

現場へ駆けつけると、対ワーディングマスクを着用して張り込みをしていたスタッフがあなたに状況を説明していると、犯人たちが建物から出てきた。

夕闇の中に蠢く少女のような人影、誰彼少女たちが。

#### ▼セリフ:支部スタッフ

「そのドアをこじ開けて建物に入る複数のオーヴァードを確認しました。警備はワーディングで無効化されたようです」

「彼らは全員同じような姿でした。女性のようにですが顔はよく見えなくて……」

「あ、出てきました！」（戦闘へ）

### ◆結末

UGNの処理班が戦闘の後始末を行なう。シーンを終了する。

## ●シーン 9:幽霊の正体見たり(PC3)

条件:「張り込み」の直後

### ◆解説

窃盗事件の容疑者として確保されたオーヴァードの調査が終わり、解析班から報告を受け取るシーン。

### ◆描写

誰彼少女たちとの戦闘からしばらく経ち、解析班によって彼らが発症したレネゲイドについての詳しい情報がもたらされた。

#### ▼セリフ:秘書

「解析班にはちょっと無理してもらいました。これ、結果です」

「彼らは全員外からのショックで発症してます。

ここまで同一の症例だと、きっと人為的なものですよ。解析班もその見解です。黒幕がいますって、この件」

「それでですね、僕もちょっとパターンを調べてみたくです。そしたら出たんですよ、ドンピシャのが。日本支部のデータベースは優秀ですね」

「綾杉七緒って女性のパターンに八割がた一致してます。間違いないですよ」

### ◆結末

PCに情報が提示されたらシーン終了。

## ●シーン 10:生き埋め(PC4)

条件:「封印施設i7の事故」について情報収集を行なった

### ◆解説 1

「封印施設i7の事故」について情報収集を行なったら発生するイベント。姫宮由里香が持ってきたUGN・N市支部で事故当時の映像を確認する。

### ◆描写 1

UGN・N市支部、会議室。プロジェクトには荒い画質の白黒映像が映されていた。

スクリーンの中では白衣を着込んだ人々が慌しく動いている。

#### ▼セリフ:記録映像

「被験者のウィルス活性化が止まりません！」

「鎮静剤はどうした！」

「効果ありません！」

「クリーンルーム内でウィルスが自己組織化を開始！ 外に出ようとしている!？」

「やむをえん、五分後に実験ブロックを破棄。封印処理を行なう」

### ◆解説 2

姫宮由里香がPCたちに事故の説明を行なう。

### ◆描写 2

画面が暗くなると同時に、会議室に光が戻る。アールラボから資料を持ってきた姫宮由里香が気だるげに資料のコピーをめくり、説明を始めた。

#### ▼セリフ:姫宮由里香

「今はi7が封印された事故当時の映像。被験者のレネゲイドウィルスを解析してる途中、暴走が始まったよね」

「その後は資料に書いてる通り、バイオハザードを防ぐために特殊合成樹脂と遮蔽コンクリートで実験ブロックは封印された……。被験者と数人の研究員を残して、ね」

「研究屋の身びいきじゃないけど、手探りの研究だった中、彼らはベストを尽くしたと思うわ」

「なにより、彼らの研究成果でUGNチルドレン育成のノウハウは五年先取りできた。五年分の命が救われたと言っても過言じゃないわ」

「日本支部設立と同時に施設の管理はUGNに移管され、i7……。虚数7というコードで呼ばれるようになったわ」

「犠牲になった被験者への哀悼のつもりかしらね。詩的さには欠けるけど」

「彼女のコードネームは“ソリタリィ・セブン”、孤独な七。今じゃオルクスと呼ばれてる新たなシンドロームの感染者だったらしいわ」

「本名は……ああ、これか。綾杉七緒」

「今の事件もあるいは彼女が……。でも何のために？ 破壊なら迂遠すぎるし、脱出だとしても緩慢すぎる」

## ◆結末

PCに情報が提示されたらシーン終了。

## ●シーン11:約束(PC1)

条件:すべての情報が提示された

## ◆解説

綾杉七緒から教えられた現住所に、置き手紙だけが残されているシーン。手紙には彼女が閉鎖施設i7で待っていること、PC1に自分のやろうとしている事を止めて欲しいと書かれている。

## ◆描写

七緒の家だと教えられた部屋は、がらんと静まりかえっていた。彼女の姿はどこにもない。部屋の中には机がひとつだけあり、封筒が乗っていた。

その中には震える筆跡の手紙が入っていた。終わりに近づくとつれ文章は乱れてくる。

そして、もうひとつ。彼女が待つ夏への扉を開くための鍵が、今、あなたの手の上にある。

## ▼セリフ:置き手紙

「PC1へ。薄々感じているとは思うけど、私はまともな人間ではありません」

「私には特別な力がありました。多分あの時あなたを助けたのもその力。あの夏休みが終わった後、私は研究所で調査に参加することになっていました」

「始めは順調に進んでいました。世界には私と同じような力を持つ人も大勢いるという事実は、私が孤独じゃないことを教えてくれました」

「だけど、あの事故で全ては変わりました。一緒に取り残された人たちはすぐ死んでしまいましたが、私は力のせいか生き続けました」

「何十年もかけて壁の向こうに力を伸ばして、ようやく作れたのがPC1と一緒にいたもうひとりの私です」

「でも、帰ってこれたと思ったのは私の思い違いでした」

「研究所は閉鎖され、i7という名をつけられていた。虚数7、存在しない七と。私も留学先で失踪した、存在しない人間にされてました」

「また、孤独になりました。でも私はここにあります。存在しない人間ではありません。だから、私は自分で自分の存在した証を残します」

「綾杉七緒という人間がこの世に存在して、今日この日まで生きていたという証を」

「多分あなたもみんなも悲しむと思う。でも、もう私にはこれしかない。もしもあなたが願いを聞いてくれるなら、私を止めてください」

「あなたとまた会えたいし、もう思い残すことはありません。綾杉七緒」

「追伸。知ってた？ 研究所の屋上からは花火大会がよく見えるんです」

## ◆結末

PCが封印施設i7に向かったらシーン終了。

シーン10:新たなシンドローム  
オルクスは1stのサブリメント『デモンズシティ』で追加されたシンドロームである。本シナリオでオルクスは、数十年前にまだシンドロームとして認知されていなかったという扱いである。

シーン11:開くための鍵  
七緒が残した封筒の中には、古ぼけた鍵が入っている。それは、封印施設i7のマスターキーだ。この鍵があれば、彼女が待つ屋上へ行くことができる。

# クライマックスフェイズ

## ●シーン 12:封印再度(PC1)

### ◆解説

シーン 12:七緒を助ける

このシナリオで七緒を助けることは想定されていない。彼女が外界に見せている姿は領域内に投影された幻で、本体はi7の地下に幽閉されているうちに、人間としての機能は停止しているからだ。

だが、彼女をEXレネゲイドやレネゲイドビーイングやとして生存させたいプレイヤーやGMがいるかもしれない。

そのような場合、戦闘後に彼女へのロイスを持ったまま(RC)や(交渉)で達成値100を出せば彼女の自我をサルページできるとしてもよい。

封印施設 i7 の屋上では綾杉七緒と、彼女に《ヨモツヘグリ》で支配された赤石昇が待ち構えている。衝動判定を行ない、戦闘へ。

七緒と昇は個別のエンゲージとし、PCのエンゲージとの距離は5mとする。

なお、この戦闘にはふたつの特殊な条件が存在する。これらについてはプレイヤーに説明して戦闘を開始すること。

- ・ 赤石昇をジャーム化させない(PC2が赤石昇へのロイスをタイタスにしない)
- ・ 施設にしかけられた爆弾を起爆させない(3ラウンド以内に七緒と昇を倒す)

施設全域に七緒の“領域”を利用した強力なワーディングが施されているため、彼らを倒さない限り処理班は突入できない。

### ◆描写

封印施設 i7、屋上。

河川敷を見下ろすここは、確かに花火見物の特等席だろう。

花火を待つかのようにだだっ広いコンクリートに腰をおろしていた綾杉七緒は、待ち人が来たことに気づいてかスカートをたたきながら立ち上がる。

その目には、涙が一筋。

と、風景がゆらりと揺れ、赤石昇もその姿を見せた。

### ▼セリフ:綾杉七緒

(昇を見て)「彼は元々オーヴァードになる素質を持ってみたい。悪いけど、もうしばらく力を貸してもらおう」

「来てくれてありがとう、PC1。そして、UGNの皆さん」

「花火大会のおかげで、ギャラリーも集まった」

「……そろそろね。花火大会が始まれば、この研究所に仕掛けた爆弾も起爆する。そうすれば“私”がいる空間も壊れて、レネゲイドがあたり一面を覆うわ」

「そうすれば、“私”の死体が見つかるかもしれ

ない。そうじゃなくても、ここには何かあると誰かが気づくかもしれない。それで、やっと私は死ねるの」

「“いないこと”にされるほど辛いことは無いわ。行方不明にされて、存在しないけど存在する数字のコードネームをつけられて、そんなのはもう嫌」

「生きた証を、綾杉七緒がいた。という証を残したいの」

(倒される)「PC1……。花火、綺麗だね」

### ◆結末

3ラウンド以内に敵を倒した場合、何事もなく花火大会が始まる。

無理だった場合、爆弾は起爆。施設は全域に渡って破壊され、レネゲイドウィルスが周囲に広がっていく。情報操作によって数百人単位で被害者の出た大事故として報道されるが、被害者たちの日常は崩壊してしまう。

# 敵データ

## “イマジナリィ・セブン”綾杉七緒

### ◆データ

ブリード:クロスブリード  
シンドローム:オルクス/ソラリス  
コードネーム:イマジナリィ・セブン

能力値 技能  
【肉体】1 〈回避〉4  
【感覚】4 〈知覚〉1  
【精神】8 〈RC〉4  
【社会】5 〈情報:噂話〉1  
【HP】105 【行動値】15

装甲値:5  
侵蝕率:180% (ダイス+5個)  
取得エフェクト

《ジャミング》3、《破碎の顎》4、《力場の形成》3、《ハンドリング》3、《トランキリティ》7、《流血の胞子》4、《アクアウィターエ》4、《コンセントレイト:ソラリス》3、《ハイパータフネス》5、《状態復元》2、《生命増強》2

### ◆コンボデータ

#### ▼惑乱の囁き

《破碎の顎》+《トランキリティ》+《流血の胞子》+《コンセントレイト:ソラリス》

タイミング:メジャーアクション

技能:〈RC〉 ダイス:16  
クリティカル値:7 難易度:対決  
対象:範囲 (選択) 射程:視界

攻撃力:+10

解説:レネゲイドを支配して暴走させる攻撃。ドッジの判定のダイスを-2する。命中した場合、対象にランク4(12ダメージ)の邪毒を与える。メインプロセスの終了時にHPを3点失う。

#### ▼誰彼少女

《トランキリティ》+《流血の胞子》+《コンセントレイト:ソラリス》

タイミング:メジャーアクション

技能:〈RC〉 ダイス:16  
クリティカル値:7 難易度:対決  
対象:範囲 (選択) 射程:視界

攻撃力:なし

解説:少女の幻をまわりつかせ、対象の精神をくじく攻撃。命中した場合、対象にランク4(12ダメージ)の邪毒を与える。メインプロセスの終了時にHPを3点失う。

#### ▼カレイドスケープ

《トランキリティ》+《幸運の守護》

タイミング:リアクション

技能:〈RC〉 ダイス:16  
クリティカル値:10 難易度:対決  
対象:自身 射程:-

解説:無数のデコイを投影してドッジを行なう。

## ■戦闘プラン

セットアップに《力場の形成》を使用。赤石昇の攻撃力を+6する。赤石が戦闘不能の場合、自身を対象にする。

最初のメジャーで「▼惑乱の囁き」を使用し、PCがもっとも多いエンゲージを攻撃する。以降は「▼誰彼少女」で1体のPCを攻撃。

《ジャミング》は赤石を対象とした攻撃に優先して使用し、判定のダイスを-3個させる。赤石が戦闘不能の場合、ドッジを行なうPCに対して使用する。

戦闘不能になったら《アクアウィターエ》を使用して、HPを40まで回復させる。

## 赤石昇

### ◆データ

ブリード:トライブリード  
シンドローム:エグザイル/ハヌマーン/パロール

コードネーム:なし

能力値 技能  
【肉体】7 〈白兵〉4、〈運転:二輪〉2  
【感覚】3 〈知覚〉1  
【精神】1 〈意志〉1  
【社会】1 〈調達〉2、〈情報:裏社会〉1  
【HP】35 【行動値】7

装甲値:3

侵蝕率:110%(ダイス+3個)

取得エフェクト

《踊る髪》2、《吸収》2、《骨の剣》3、《一闪》2、《獅子奮迅》2、《斥力障壁》3、《コンセントレイト:エグザイル》3

### ◆コンボデータ

#### ▼貪る黒

《踊る髪》+《吸収》+《獅子奮迅》+《コンセントレイト:エグザイル》

タイミング:メジャーアクション

技能:〈白兵〉3 ダイス:13  
クリティカル値:7 難易度:対決  
対象:範囲(選択) 射程:至近

攻撃力:+8

解説:《骨の剣》による白兵攻撃。1点でもHPダメージを与えた場合、対象に硬直を与え、そのラウンドの間、対象の行なうあらゆる判定のダイスを-2個する。1シナリオに2回まで使用可能。

#### ▼黒の剣

《踊る髪》+《吸収》+《コンセントレイト:エグザイル》

タイミング:メジャーアクション

技能:〈白兵〉3 ダイス:13  
クリティカル値:7 難易度:対決

対象:単体 射程:至近  
攻撃力:+8

解説:《骨の剣》による白兵攻撃。1点でもHPダメージを与えた場合、対象に硬直を与え、そのラウンドの間、対象の行なうあらゆる判定のダイスを-2個する。

## ■戦闘プラン

最初のマイナーで《骨の剣》を使用。

最初のメジャーでは「▼貪る黒」に《一闪》を組み合わせ、PCがもっとも多いエンゲージを攻撃する。

攻撃に対してはガードを行なう。ガード値は6である。ダメージが大きい場合、《斥力障壁》でさらに-1D+6する。

## 誰彼少女

### ◆データ

ブリード:クロスブリード(トループ)  
シンドローム:キュマイラ/エグザイル  
コードネーム:なし

能力値 技能  
【肉体】7 〈白兵〉4、〈回避〉1  
【感覚】2 〈知覚〉1  
【精神】1 〈意志〉1、〈知識:職業〉2  
【社会】2 〈情報:ウェブ〉1  
【HP】35 【行動値】5

装甲値:2

侵蝕率:90%(ダイス+2個)

取得エフェクト

《獣の力》2、《破壊の爪》1、《ハンティングスタイル》1、《オールレンジ》2、《コンセントレイト:キュマイラ》2、《イベイジョン》1

### ◆コンボデータ

#### ▼迫り来る獣

《獣の力》+《オールレンジ》+《コンセントレイト:キュマイラ》

技能:〈白兵〉4 ダイス:11  
クリティカル値:8 難易度:対決  
対象:単体 射程:至近

攻撃力:+13

解説:数に任せて対象を押しつぶす白兵攻撃。

## ■戦闘プラン

最初のマイナーで《破壊の爪》+《ハンティングスタイル》を使用。白兵武器を作り、PCが一番多いエンゲージへ移動する。

メジャーでは「▼迫り来る群れ」を使用し、範囲内にいるPC1体を攻撃する。

攻撃に対しては、《イベイジョン》を使用してドッジを行なう。達成値は15である。

# エンディングフェイズ

## ●シーン 13:休暇の始まり(PC3)

### ◆解説

PC3、PC5のエンディング。UGN・N市支部で事件の事後処理を行っていると秘書がやってきて休暇申請が通ったことを報告するシーン。

### ◆描写

綾杉七瀬の事件は終わったが、事後処理のデスクワークは終わらない。今日も今日とて関係各所への書類作りに追われている。

そんな勤勉な沈黙を破り、秘書がやってきた。手に持っているのは、薄っぺらい書類が三枚。

### ▼セリフ:秘書

「やりました。休暇申請通りました！」

「はい。これ支部長、それからPC5の分」  
(もう一枚について)「ああ、これは僕の方です。いやあよかったよかった。さっき宿の予約も済ませちゃいましたよ」

「では、皆さんもしっかり骨休めしてください！ 僕はお先にあがらせてもらいます」

### ◆結末

ひととおり日常を演出したら、シーンを終了する。

## ●シーン 14:口ゴス(PC4)

### ◆解説

PC4のエンディング。UGN日本支部に帰還し、霧谷に事件を報告するシーン。

### ◆描写

蝉の鳴き声は出発したときより力強くなってきた気がする。霧谷のオフィスに着くと、彼はまた聖書を読んでいた。彼はページを開いたまま、あなたに会釈した。

### ▼セリフ:霧谷雄吾

「ありがとうございます、PC4。大筋の報告は既にN市支部の方からも届いていますよ」

「『太初に言あり、言は神と偕にあり、言は神なりき』ヨハネによる福音書の冒頭です」

「言葉。というものは人間が他者と交流するためにもっともよく使うツールのひとつです」

シーン 16:七緒を助けた場合  
七緒を助けた場合、検査入院を終えた七尾が退院してくるシーンにするとういだろう。  
PCと七緒の前には、抜けような夏の青空が広がっている。

「もしかしたら、あの施設にももう少しふさわしい名前があったのかもしれないね……」

### ◆結末

PC4が応じたところで、シーンを終了する。

## ●シーン 15:新たなる仲間(PC2)

### ◆解説

PC2のエンディング。赤石昇がジャーム化しなかった場合を想定している。UGNの訓練生として、昇が現われるシーン。

昇がジャーム化した場合、彼が消えた日常などを演出する。

### ◆描写

UGN・N市支部の訓練施設。あなたは新しく入った訓練生のパートナーとして抜擢され、ここにいる。

頭上で蝉がうるさく鳴く中、それよりけたたましい男が現われた。

「PC2殿でありますね！ 自分、本日より訓練生として配属された赤石昇であります！」

### ▼セリフ:赤石昇

「助かったぜ、PC2。……って、詳しいことは知らんが、お前のお陰で助かったらしい」

「なんかいろいろ説明を受けて、能力を制御する一貫としてここに来させられたってわけ」

「これから、よろしくな」

### ◆結末

PC2が応じたところで、シーンを終了する。

## ●シーン 16:孤独な数字(PC1)

### ◆解説

PC1のエンディング。姫宮由里香が七緒の遺品を持ってくるシーン。

### ◆描写

駅前の喫茶店。約束の時間から少し遅れてあなたを呼び出した姫宮由里香がやってきた。

彼女は黙って素っ気ないクラフト紙の封筒をあなたに渡すと、手早く注文をして店員を追い出した。

### ▼セリフ:姫宮由里香

「それ、彼女の遺品。霧谷の決定であの施設は正式に解体されることになってね。無理を言ってもらってきたわ」

(運ばれてきた紅茶に口をつける)「ま、値段相応ってとこか」

「七は孤独な数字、ね……」

「一から十までの数字をふたつに分けて掛け算すると、どうやっても同じ値を出せない。それはどちらかが七の倍数になるから。なんてありふれたネタなんだけど」

「彼女、誰かに干渉してもらいたかったのかも」

「そういえば、人が生まれるとき泣くのは孤独なことを知るから。って話もあったわ」

「完璧ならざる人間は、誰かに干渉されないと孤独を埋められない。おぎゃあと泣かずに七歩歩いたお釈迦様にはわかるまい……ってね」

「いけないわ、ちょっとセンシティブになり過ぎたかな？」

### ◆結末

PC1 が応じたらシーン終了。

## 「Who Inside」 プレイレポート

### ●このシナリオについて

本シナリオは、綾杉七緒というオーヴァードによって命を救われたPC1が、歳月によって変貌した彼女と対峙する内容になっている。

シナリオ中では七という数字、そして七月の暑さがモチーフとして繰り返される。イメージされているのは、夏休みに入ったばかりの浮世離れた雰囲気だ。

### ●PC1の年齢

PC1の年齢は20～30代を想定している。

しかし、このシナリオで重要なのは過去に七緒から助けられ、夏休みを一緒に過ごした思い出があるということである。このため、設定を多少変更することで中高生のPCでも問題なくプレイすることができた。

### ●七緒を助けるか

このシナリオで、七緒はPC1と思い出を共有するヒロインであり、シナリオで倒されるべき

敵でもある。このため、彼女と戦うことに躊躇したり、救出する方法を模索するプレイヤーがいるかもしれない。

そういう場合、GMはクライマックスフェイズのハシラに記述されている内容を基準に、PCに判定を求めるとよい。

重要なのはPC、そしてプレイヤーが納得してセッションを進行できるようにすることだ。判定の機会を与えることは、成功しても失敗してもゲームとしてひとつの結果を残すことができる。